

東白石通信

東白石まちづくり実践会
とんぱくニュース
札幌市白石区本通13丁目南10-1
東白石まちづくりセンター内
TEL861-9262 FAX861-4369

年頭に当たって

東白石地区町内会連合会 会長 山中 忠典



新年明けましておめでとうございます。東白石地区町内会連合会の山中でございます。新しい年を迎え、希望に胸を膨らませていることと思います。昨年を振り返ってみますと、コロナ禍も5類になり活動も活発になって参りました。東白石地区町連の役員の皆様、そして各種関係団体役員の方々の協力により、町連の行事も滞りなく実施することが出来ました。思い出に残る行事として「東白石ふれあいまつり」「白石区と共催した防災訓練」「地域と密着した安心安全パトロール」等地域住民が健康で安心して暮らせるよう活動してきましたが、実施に当たり参加者や役員に事故がなかったことが私には嬉しい限りです。この紙面をお借りして感謝申し上げる次第でございます。

今年も昨年同様の行事予定となると思いますが、役員も参加する方も徐々に高齢にもなって参りました。計画を実施するには安全に気を配っていかなければならないと思っており、子供たちが安心して遊べるまちづくりをし、地域をふるさとと思ってもえるようにしていかなければならないと思います。東白石地区町内会連合会は昨年10月で設立60周年(昭和39年(1964年)10月9日設立)を迎えましたが、今後も皆様と一致協力して地域住民の方々が住んで良かったと思える地域にしていきたいと考えております。是非ご協力をお願いいたします。

結びになりますが、皆様方のご健康を祈念いたしまして年頭の挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

東白石まちづくりセンター 所長 水野 雅人



新年明けましておめでとうございます。東白石地区の皆様におかれましては、健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げますとともに、日頃より東白石地区のまちづくりにご尽力いただいておりますことに深く感謝申し上げます。

私が東白石まちづくりセンターの所長に着任してから9ヶ月が経過いたしました。平成23年以来2回目のまちづくりセンター勤務となりましたが、まちづくりセンターの仕事が増加多様化しており、量的にも質的にも高いレベルになっていることを実感いたしました。その中で地域の皆様がまちづくりセンターに頻繁に出入りされ、困ったことを何でも聞いてくださり、相談されますことや、札幌市からのお願い事を快くお引き受けいただき且つ地域のイベントでは、皆さんが率先して動かれる姿を拝見いたしますと、まちづくりセンターが、地域の潤滑油として大切な存在であることを改めて認識いたしました。これもひとえに日頃から地域の皆様が長年築き上げた地域の力の賜物であると感じております。さらに私がこのまちづくりセンターで快く仕事が出来ておりますのは、地域の皆様のご厚情に支えられたものと深く感謝申し上げます。

昨年はコロナ以前の日常に戻ったと感じられた1年でした。制約のあった町内会や団体の活動も、以前のような活動に戻って参りましたが、やはり4年の空白は大きく、住民の皆様の考え方が変わり、活動内容も異なったものとなって参りました。東白石地区においても、本来の活動に近づくために多大なご苦勞があったのではないかと思います。

東白石地区では、災害に備えた防火・防災訓練のほか、安心・安全パトロール、ご高齢の方の見守り活動など皆様が安心して快適に暮らせるよう様々な取組みを行っております。私どもも微力ながら皆様の活動を支援してまいりたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

第9回東白石ふれあいまつり

東白石地区町内会連合会 総務部長 柳本 稔榮

恒例の「東白石ふれあいまつり」を、昨年10月19日(土)午前10時から午後3時半頃まで東白石会館にて開催いたしました。

今年度の開催に当たりましては、「子どもも大人も一緒に楽しめるイベントとして、地域での世代を超えたふれあいの場づくり」を目指して企画いたしました。午前の部は、子どもも大人も楽しめるプログラムとして、本郷和太鼓クラブの演奏、故新和樂(新舞踏集団)による踊りと琴の演奏、東白石小学校合唱部の合唱が披露されました。

休憩をはさんで午後の部は、大正琴アンサンブル、ハワイアンダンス、オカリナアンサンブル、詩吟、カラオケ、南京玉すだれ、手品で当地域の皆さんが日頃から鍛え、温めてきた腕や技やのどが披露されました。

多彩な演目に、沢山の拍手と歓声が起こり、アンコールの声がかかることもありました。また今回は、喫茶や綿あめ、ポップコーンに加え、日赤奉仕団による炊き出しやバザーが行われ、大変にぎやかでした。昨年の反省点を踏まえ、早くから様々な事前のPRを行い、当日はあいにくの暴風雨にもかかわらず、200名余が来場されました。ご来場のお客様をはじめ、関係者の皆様、大変お疲れ様でした。



故新和樂さん



あけぼのカラオケ

「白石区ふるさと祭り」に参加して

白石区ボランティア連絡会 会長 土橋 紘子(本郷町内会)

「第49回白石区ふるさとまつり」は、令和6年9月1日(日曜)に札幌コンベンションセンターで開催され、約16,000人の来場者がありました(主催者報告)。

「白石区ふるさと祭り」は、白石区の魅力や歴史・伝統等をお伝えする場として昭和51年から毎年開催しており、白石区の大イベントとなっております。姉妹都市である宮城県白石市の物産展や仙台藩城主片倉家中の砲術を伝承する「片倉鉄砲隊」の紹介や、白石区内各町連の女性部による「白石音頭」や「子ども遊芽(ゆめ)カーニバル」等のイベントの他に、たくさんの屋台の出店もありました。白石区ボランティア連絡会も「環境に優しいリサイクルの店」というテーマでバザーに毎年参加しております。今年は晴天に恵まれ大人から子供までが楽しんだ大盛況のお祭りでした。来年は、第50回の節目を迎えます。



白石音頭 先頭は東白石地区!



ふるさと祭り バザー出店

令和6年度白石区防災訓練

東白石地区町内会連合会防火防災部長 媚山 一夫

昨年の元日には、石川県能登半島、その後も九州・四国一帯では南海トラフと疑われる大地震が発生、9月には能登半島の記録的豪雨など続けて多数の死亡者が出て地震列島を痛感する状況になっております。

今年度の防災訓練は大災害が発生した想定のもと、9月28日14時~16時に白石区と東白石地区町内会連合会共催の合同防災訓練として万生公園グラウンドで実施されました。

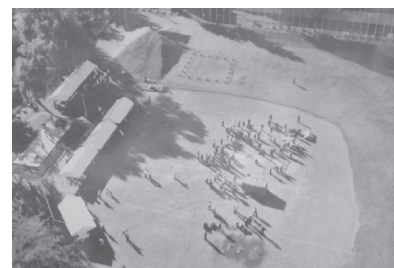
関係12団体のご協力と白石消防署のご指導で参加者

250名余がA~Fグループの6つに分かれ、若い世代に希望を託すボーイズ・ファイア・クラブの子どもたち20数名も参加し、①消火、②煙道通過、③応急担架作成搬送、④防災資機材・AED、⑤炊き出し、⑥災害時給水・高圧洗浄機、など実践に即した各訓練を15分交代で行いました。

大災害が起きると行政機関など「公助」の対応にも限界があり、「共助」の各種訓練を実施することは町内会や地域住民の防災意識の向上に非常に重要です。今回初の試みとしてドローンが訓練の様子を上空から撮影した映像をモニターで見ることができました。今後も咄嗟の場合に素早い対応がとれるよう防災訓練を継続していく必要があります。



倒壊家屋からの救助



ドローンからの空中映像

あけぼの町内会 50 年の歩み

町内会訪問 「あけぼの町内会」

あけぼの町内会 会長 津元克比古

あけぼの町内会の発足は、昭和50年(1975年)4月1日となっています。令和7年4月には、あけぼの町内会設立50周年を迎えます。初代会長には大槻儀氏が就任し、あけぼの町内会としての活動が始まりました。現役員としては西岡由美子氏が昭和56年度から婦人部長、副会長として40年間務め、現在も相談役として頑張っています。また、百井達雄氏は昭和60年度から教育文化副部長、会長、顧問を29年間務めました。津元克比古は平成29年度から会長を務めています。現在のあけぼの町内会の事業は、会員相互の親睦と福利の増進を図り、明るく住みよい地域を目指し、新年会、日帰りレクリエーション、女性部の日帰り研修会、花壇部による街路樹マスの花植えと水やり、こども夏祭り、資源回収、自主防災訓練などいろいろな事業を実施し、現在、50周年記念事業に向けて準備をしています。



日帰りレク

タイムカプセルは4年後に!!

町内会訪問 「南郷東町内会」

南郷東町内会 会長 多田 慶一

昭和34年(1959年)54戸で発足、65年が経過し、南郷通の整備、地下鉄南郷13丁目駅開設等で飛躍的に発展、現在は1,400世帯ほどの地域です。町内会は当初の戸建てが激減しマンション・アパートが70%弱となり、加入率は50% 720世帯であります。名称は南郷地区の一番東に位置するところから南郷東町内会となりました。組織は、総務・会計・女性・防犯・環境・厚生・防災の7部、班は30班で毎月定例役員会(班長会議)を開催し、行政からの資料配布と毎月発行の町内会ニュースで情報提供をしています。主な行事として厚生部・女性部主管のピクニックがあり、バス2台で行くブドウ狩りが恒例です。パーク南郷東(パークゴルフ愛好会)は健康増進とふれあい交流で毎月定例会を開催し楽しんでいます。排雪事業は、区との共同によるパートナーシップ排雪事業の実施、と事業目的として会則に載っているのが特徴です。町内会には二つの公園があり、12丁目南のあおい公園にタイムカプセルが埋設されています。35周年記念事業として平成6年(1994年)公園リニューアルのとき公園中央にマウントスライダーを設置し、その中に埋め込まれました。開封は創立70周年令和11年(2029年)なので、あと4年後が楽しみです。



南郷東あおい公園
マウントスライダー

費用負担で町内の街灯は全て市に移管し、担い手不足から毎月第二日曜日の資源回収は業者委託で実施、広報さっぽろの配布は早くから区に移管をしており、高齢化とともに、単身者用アパート、マンションが増加し町内会加入率も低下、また、他の町内会同様に役員のなり手不足が大きな問題となっていますが、一人一人が、ここに住んで良かった、ずっとここに住んで居たい、という気持ちになるよう、安心安全で開かれた町内会を目指していきます。

日帰りレクで町内会活性化!!

町内会訪問 「東栄会」

東栄会 会長 辻 直則

東栄会は国道12号線を中心として南北一本目までの道路と南は10丁目から12丁目まで、北は10丁目から月寒川までの細長い地域です。国道沿には企業が多く住宅は少なく200世帯ほどの小さな町内です。その歴史は古く、12号線沿いの農家を中心となってできたそうですが、残念ながら資料が残っておりません。活動は町連行事の参加が中心となっており、町内会活動の最大のイベントは日帰りレクです。今年は思い切って「仁木のさくらんぼ狩りとカキ番屋でのバーベキュー」と題して寿都町まで出かけてきました。食べ放題で参加の皆様には大変喜んで頂き、親睦が深まりました。コロナが長く続いたことで会員の皆さんの外へ出たい気持ちを強く感じていますので来年も準備したいと思います。そして新しい参加者を得て活動の一翼を担っていただきたい、そんな思いで活動をしています。

これからも東栄会をよろしくお願いいたします。



カキ番屋

「アレフ施設のいま」

東白石地域オウム真理教(アレフ)対策住民協議会 会長 藤原 英朔

施設ができてから8年がたち、公安調査庁、北海道警察の立入検査を受けながらも地下鉄サリン事件の首謀者である麻原彰晃を絶対的帰依の対象としているのが、オウム真理教から名前を変えた「教団アレフ」です。

公安調査庁がこの「アレフ」を団体規制法に基づく観察処分の対象としていますが、この処分についても約束を守らないために、施設、建物の一部「使用禁止」の処分を受けています。

一部使用禁止とは、現在、10人程度の信者が居住、生活していますが、居住する以外の行為、すなわち、サークル、研究会等々での使用を禁止するというものです。もちろん、外部からの出入りも禁止されているし、あらゆるところでの勧誘活動も禁止されています。

このように「アレフ」が行動制限されている中でも、私たち地域住民が「アレフは解散せよ」「地域が認めていない団体なんだよ」と声を出し続けなければならないと思います。「特別悪さをしないんだからこのままにしておけば」との考えは甘いんです。サリン事件の首謀者、麻原を絶対だと信じている「アレフ」だから!!



アレフ施設全景

「あなたも、民生委員児童委員になりませんか？」

東白石地区民生委員児童委員協議会 会長 相馬 毅

新年明けましておめでとうございます。地域の皆さまからは、日頃より地域福祉の活動に対してご協力いただいていますことに感謝を申し上げます。

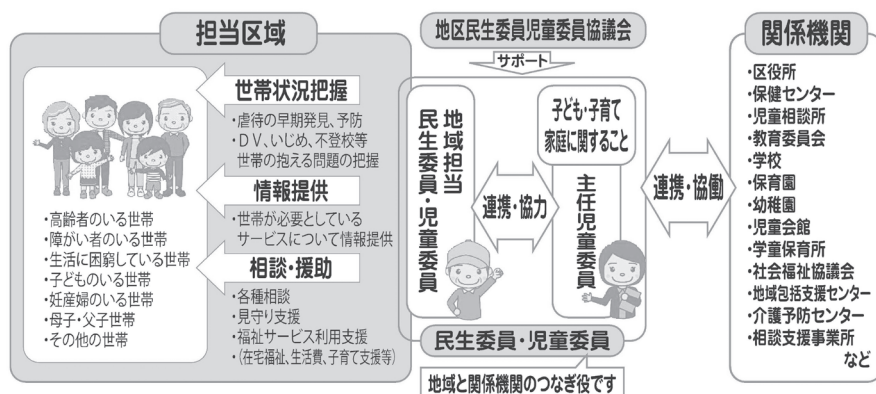
今年は、3年に一度の民生委員児童委員の改選時期であり、各単位町内会にお願いしながら、退任される委員の後任の方を探していきたいと思っています。現委員は約50名おり、そのうち80%の方が女性です。委員に関心のある方、なってもいいかなと思われる方は、事前に東白石まちづくりセンターにご連絡頂ければ幸いです。

民生委員制度は100年以上前からある、わが国唯一の制度ボランティアです。厚生労働大臣から委嘱された無報酬の非常勤特別職の公務員の立場です。皆さんは、民生委員の活動が大変だと思いませんか？以前は、委員の役割は生活困窮者の支援が主であり、自宅訪問し調査や市への報告等していましたが、今は社会福祉制度の普及に伴い、高齢者等の生活や子育ての困り事を聞き、行政や適切なサービス機関につなぐ役割を担っており、一人暮らしの高齢者などのへの訪問や電話による安否確認が重要な活動となっています。

任期は3年で、報酬は支給されませんが、実費等の活動費は市から支給されます。新任の委員になるに当たり、特別な知識や経験は必要ありません。また、仕事をされている方でも活動されております。活動で困った場合には、月一回の定例会などで役員や班長、先輩委員に相談したり、班の研修会や勉強会の開催、市発行の活動ハンドブックやガイドブックQ&Aなど支援教材も用意されております。市・区や地区民生委員児童委員協議会、協議会の委員が相互サポートしながら進めています。

あなたも、民生委員児童委員になりませんか。

民生委員・児童委員、主任児童委員のしくみ



編集後記

昨年（令和6年）は、コロナ禍における制約が少し緩和されたこともあり、各町内会や東白石地区町内会連合会と各種団体、学校等、地域が従来の活動を取り戻すことができた1年間でした。東白石通信第29号は、皆様のご活躍の様子を内容満載でお届けいたします。同時に日常を取り戻したことへの喜びの気持ちをお汲み取りいただけると幸いです。